

博士課程教育リーディングプログラム・複合領域型 -多文化共生社会-

未来共生イノベーター博士課程プログラム



夢はバラ色

志水宏吉*, 榎井縁**

Program for Leading Graduate Schools
Doctoral Program for Multicultural Innovation

Key Words : RESPECT (Revitalizing and Enriching Society through Pluralism,
Equity, and Cultural Transformation)

未来共生イノベーター博士課程プログラム

文部科学省の大学院教育強化を目指す「博士課程教育リーディングプログラム」は一昨年からスタートし、オールラウンド型、複合領域型、オンリーワン型の3つの領域で選定された44のプログラムが全国の大学大学院で展開されています。その中でも複合領域型は、環境、生命健康、安全安心、物質、情報という分野に重点が置かれる中で、昨年度唯一文系の領域も推進していくことができる「多文化共生社会」という領域が設定されました。

全国で9つの大学大学院が手を挙げて、大阪大学を含む3つの大学大学院（金沢大学、同志社大学）が採択され、今年度よりそれぞれ独自のコンセプトでプログラムをスタートさせています。わたしたちは、多文化共生を考える上で、すべての社会がさまざまな多様性から成り立っており、その多様性を2つの側面から捉える事ができると考えました。一つ

は、国籍、民族、宗教、言語などにもとづく文化的多様性、もう一つは階層、ジェンダー、年齢、障害など社会的多様性です。グローバル化が進展する現代社会ではこうした多様性が増大し、対立やコンフリクトを生じさせる主因となっているのが現状です。わたしたちが養成したいと考える人材は、人びとの中にある多様性の「違い」をノイズとして処理する（同化させる）のではなく、「違い」を貴重なリソースと捉え、それをパワーにし、共通の未来に向けた共生社会を豊かに紡いでいく「未来共生イノベーター」です。他者への敬意を通じた多文化理解と社会革新を促す本事業は「RESPECT (Revitalizing and Enriching Society through Pluralism, Equity, and Cultural Transformation) プロジェクト」と略称されています。

またこのプログラムは部局横断的な教育研究の推進組織「大阪大学未来戦略機構」の第五部門としても位置づけられ、総長のリーダーシップのもとに大学の総力を結集しながら推進しています。



* Kokichi SHIMIZU

1959年9月生
東京大学大学院教育学研究科博士課程修了
現在、大阪大学大学院人間科学研究科
教育環境学講座教育文化学研究室 教授
博士(教育学) 教育社会学
TEL: 06-6879-8099
FAX: 06-6879-8099
E-mail: shimizuk@hus.osaka-u.ac.jp



** Yukari ENOI

1961年9月生
大阪大学 人間科学研究科 博士後期課程単位取得退学
現在、大阪大学 未来戦略機構第五部門
特任准教授 修士(人間科学) 教育社会学
TEL: 06-6879-4129
FAX: 06-6879-4143
E-mail: yuenoi@respect.osaka-u.ac.jp

特色としてのプラクティカルワーク

本年4月から選抜試験を経た17人の第一期生たちと、プログラムがスタートしました。プログラムへ参画しているのは、文学研究科（文化表現論、文化形態論）、人間科学研究科（人間科学、グローバル人間学）、法学研究科（法学・政治学）、経済学研究科（経済学、政策、経営学系）、医学系研究科（医学、保健学）、工学研究科（地球総合工学、ビジネスエンジニアリング）、言語文化研究科（言語文化、言語社会、日本語・日本文化）、国際公共政策研究科（国際公共政策、比較公共政策）の8研究科17専攻です。プログラムを推進するのは学内教員44人と学外担当者9人、特任の教員・スタッフは学生数と同じ17人、研究分野やポジションを越えて未

来に共生社会を生み出すことでつくられたユニット“RESPECT87” (??) という感じでしょうか。5月から月1で関係者が交流する場“未来共生イブニング”が開かれています。教員や学生を含め本当に多様なメンバーが集っています。



図1

スタートして2ヶ月経った今、学生たちはこのプログラムをどのように感じているのでしょうか。カリキュラムの骨格となるのがコースワーク（アカデミックワークとプラクティカルワーク）およびリサーチワークです。5年間のカリキュラムの概念を表したものが図1となります。

アカデミックワークのコア科目となる「未来共生社会論」は、国内外における文化的・社会的多様性のもとでの共生社会のあり方の探求を、政策論的な視座から、オムニバス形式の授業を通して行われています。多角的視座から共生社会への課題を受け、学生からはバラエティに富みすぎて消化しきれないという感想をよく聞きます。しかし、知らないことを知ることが学術的知識の探求にもつながっているようです。もう一つのコア科目「未来共生の哲学と諸課題」では座学だけではなく臨床哲学的な“対話の場”を重ねています。車座になって行う授業に最初は戸惑いもありましたが、身体的・感情的・知的なセーフティを考え続けることで、共生を探求する際に重要なセンスが養われつつあるようです。

また本プログラムの最大の特徴といえるプラクティカルワークでは、大学外のさまざまなフィールド・実践の現場における体験的学習が展開されます。一年目の前期はコミュニティワークという実践演習が3部構成で行われています。第一部は大学周辺に出向き同和・在日コリアン・イスラム教徒など地域社会のグローバル化・多文化化の実態に触れました。第二部は公害裁判から地域再生を果たした場を歩き、当事者からの話を傾聴しました。人間の開発と自然、多様な人びとの間での共生が、長い年月をかけ、弛まない努力の中で模索されてきたことを知りました。学生たちはこうした体験を通して、知識として学ぶだけではなく、社会で「何か（行動）する人」でありたいと思いはじめています。

第三部としては、この夏に東北の被災地（岩手県野田村・宮城県気仙沼市・同南三陸町）をフィールドに10日間の実習・調査を行いコミュニティの復興への道筋を探ることとなっています。最終日には全員が野田村のサテライトオフィスに集合し、それぞれの経験を共有することになっています。

後期は半年に渡って週に1日それぞれ違う公共サービスの場に出向いて現場での社会参加活動をする事となっており、2年目にはいくつかの現場に複数人で出向きプロジェクトを実践しながら学ぶ予定になっています。3年目には海外インターンシップにおいて2ヶ月から半年の実践と学びをすることとなっています。

それぞれの所属する研究科でのリサーチワークにおいては、未来共生の視点と各研究の専門性を併せ持った博士論文を執筆していくために、個人がオリジナルな関心を自立的に追求していきます。その際には多領域における学内教員の指導を受けられるだけでなく、多彩な学外プログラム担当者のアドバイスを仰ぐことができます。修了者には自専攻が授ける博士号に「未来共生イノベーター博士課程プログラム」の修了が付記されます。

多文化コンピテンシーを育む

これらを通じ未来共生イノベーターが身につけていくものが6つのリテラシーからなる「多文化コンピテンシー」です。このリテラシーの育成には大阪大学の各参画研究科ならではの特徴的で豊富な資源の蓄積が反映されています。

- 多言語リテラシー：複数の言語の習得や多言語ニーズに関する感性を磨く
- フィールドリテラシー：現場の人びととラポールを形成し協働で実地体験を蓄積する
- グローバルリテラシー：グローバル市民としての知識・資源・問題意識・倫理観を養う
- 調査リテラシー：多角的なデータや情報の収集・分析・評価の手法を習得する
- 政策リテラシー：社会の現実を政策的視点から理解し、建設的改革案を提示する
- コミュニケーションリテラシー：利害や立場の異なる人びとをつなぐ回路を創出する

未来共生社会の実現

最後に、わたしたちが RESPECT プロジェクトを通じて実現したい社会に触れておきたいと思います。



図2

9・11以降、移民受け入れを推進してきたアメリカやヨーロッパでも文化的多様性を認めてきたことは失敗であったとして、排斥運動や同化社会への揺り戻しが起きています。また各地で繰り広げられる悲惨な紛争や対立は絶えることがありません。経済的格差が社会的により弱い人びとの立場を悪化させているのが現実で、統合主義さえも後退しかねないのが状況です。

今求められるのは同化でも統合でもない図2に示す第三のモデルだと思われます。従来から文化的・社会的「違い」を生み出してきたホスト社会そのものが、その「違い」を社会的に包摂することによって自ら変化していく、創造的な共生モデルが求められているのではないのでしょうか。わたしたちは、すべての人びとが環境も含めて「認め合う共生」「助け合う共生」「高め合う共生」という未来共生社会の実現、すべての人があまねく平和を実感できる社会、人権や社会正義の実現を目指したいと思います。

未来共生という新たな分野へ、RESPECT プロジェクトを通じて育成される博士課程人材と、プロジェクトに関わるスタッフ全員が、それぞれの専門領域を越えて、研究活動というクールな頭と、実践活動という熱い心をもって挑戦していきたいと思っています。わたしたちの挑戦に、是非皆様方からのご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

RESPECT ホームページ

<http://www.respect.osaka-u.ac.jp/>